

### 1. 評価結果概要表

**【評価実施概要】**

事業所番号	0475500476		
法人名	医療法人社団清山会		
事業所名	グループホーム いずみの杜		
所在地 (電話番号)	仙台市泉区松森字下町7-2		(電話) 022-771-1721
評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 20 年 10 月 16 日		

**【情報提供票より】**(平成 20年 9 月 30 日事業所記入)

**(1) 組織概要**

開設年月日	平成 13年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14人	常勤 14人, 非常勤 0人, 常勤換算	13.88人

**(2) 建物概要**

建物形態	○併設/単独		○新築/改築
建物構造	鉄筋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

**(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)**

家賃(平均月額)	35,000~50,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有( 円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/○無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

**(4) 利用者の概要( 9月 30日現在)**

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4	名	要介護2	7	名
要介護3	2	名	要介護4	3	名
要介護5	2	名	要支援2		名
年齢	平均 79.1 歳	最低	54 歳	最高	97 歳

**(5) 協力医療機関**

協力医療機関名	いずみの杜診療所
---------	----------

**【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】**

グループホーム「いずみの杜」は、「いずみの杜診療所」、「デイホームいずみの杜」と同一敷地内にある。「入居者一人ひとりの思いが実現に結びつくケアをしよう」がこのホームのテーマの一つである。一人ひとりについての居室担当者をきめ、その報告を毎月のユニットカンファレンスで検討している。更に通常業務に従事する要員の他、入居者がやりたがっていることを実行する「フリー勤務」を設けている。その結果車椅子でパチンコに行ったり、入居者の娘さんの結婚式に付き添って喜ばれている。週4回の食材買い出しに順番で1回毎に6人の入居者を同行し、自分の小遣いで買物を楽しんでいる。「キャンドル入浴」を実行し、一番楽しんだのは職員であった、ということは、今後のグループホームの理想を示している。

**【重点項目への取り組み状況】**

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の意義については、外部の視点を通じて、ケアの質向上のきっかけとして重視している。前回の改善課題、①重度化や終末期の方針は実績の経験に基づき、指針を策定している。②入浴については、入居者が更に楽しめるよう工夫している。③共用空間作りについても神経が行き届いている。このように改善の努力がみられた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を職員一人ひとりのスキルの振り返り、ケアの気付きについて確認する機会とし、そのために全員で検討した。また、外部評価の結果を運営推進会議に報告することで、ホームのサービス内容について理解を深めていただく機会としている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議に外部評価の結果について報告し、ホームのサービス内容について理解していただく機会としている。町内の夏祭りや運動会についても会議で検討し、ホームからの出店、入居者の運動会競技参加につながっている。入居者と食事を共にしていただくなど、触れ合いも大切にしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会を年に2回開催している。運営推進会議には家族代表も出席している。家族への報告も毎月発行の「GHいずみの杜」も含めて、きちんと行われている。家族の意見の聞き取りについては、面会時を活かして行なっている。その上での希望としては、面会に來れない家族に対しての工夫を更に考えて実行し、経過や結果を発表していただきたい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域とのつきあいの重要性について職員に徹底されている。隣接する同法人の診療所、地域包括支援センターと共に地域の社会資源としての役割を自覚しているからである。町内会の行事も活発であるが、ホームとしても受動的に参加するのではなく、積極的にイベントを盛り上げようとする姿勢が感じとれる。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念として、「人と人との関わり、人と街との関わり」があり、地域との関係重視がうたわれている。新年度毎に職員全員が意見をもち寄り、事業所目標とユニット目標を策定している。くすみユニットは「笑顔の絶えないユニット」であり、ずんだユニットは「ゆったりした気持が通い合うユニット」である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニット目標は具体的な事柄なので、心掛けとして日々のケアサービスに活かしやすい。半年毎に行なう管理者による職員との面談の際、確かめるなどして日常のケアを振り返る指針にしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員に近所とのつきあいの重要性が徹底されている。子供達との接し方一つにしても背後にあるお母さん達のホームへの理解につながると考えるからである。町内の夏祭りには屋台を出し、又青年会の出店も手伝うなど職員と同世代の付き合いも重視している。町内運動会では入居者の半数が玉入れ競技に参加した。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は改めて日常のケアを振り返る機会になっていると認識し、外部評価については、外部の視点を通してケア向上のきっかけとしているなど、良く理解されている。外部評価の結果を運営推進会議に報告することで、ホームのサービス内容について理解を深めてもらう機会としている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーは町内会長、同役員、民生委員、老人クラブ代表、包括支援センター職員、家族代表であり、2か月毎に開催している。食事を共にするなどして入居者との触れ合いも大事にしている。町内会の行事、防災訓練についても話し合っ運営し、入居者の娘さんの結婚式出席への支援報告は好評であった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者に運営推進会議への出席を要請しているが実現していない。しかし会議の内容などについて状況は報告している。包括支援センターから情報と指導を得て、成年後見制度を利用している人もおり、市との関係は重視するとしているので、今後に期待したい。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「GHいずみの杜新聞」を毎月発行配布し、他にも文書で運営推進会議の状況、職員の異動等が報告されている。また、毎月の金銭管理の報告もきちんとなされている。今後は家族会や、面会に来れない家族に対して、電話などによる肉声での伝達にも力をいれたい。	○	家族会やホーム行事に参加できない家族ほど、日常の様子を知りたいが遠慮があると思うもので頃合いをみての肉声による連絡等は、入居者、家族の大きな安心につながると思うので尚一段の配慮を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年に2回開催している。運営推進会議の家族メンバーは2名の代表制で会議の都度交代で出席している。家族の面会時は要望を引き出すよう努力し、簡単なことでもケース記録に記載している。苦情受付の第三者委員も貼り出されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動は結婚、昇進などやむを得ないものがあるようだ。しかし管理者は異動による入居者、家族の心理的負担については理解しており、今後は極力押さえたいとしているので、期待したい。交代時は引き継ぎも兼ねて重複して勤務するなどして、ダメージの抑止に配慮している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は、1月から9か月間で24回を数える。いずれの研修も日々の実践に即したもので、「施設における非常災害対策①」は「車椅子を押せなくなった、がれきの中でも搬送できる方法」といったものなどである。ホームからは毎回4～8人参加しており、時間帯は18:30からであり参加への努力に敬意を表したい。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会に加盟し、同会の主催する研修会などに積極的に参加している。法人内での交流としては、清山会クリエイティブ・ケア研究所の主催する研修会や情報交換の会に参加している。特に認知症よろず相談会は、年間6回開催されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人及び家族の気持ちや要望の把握に努めている。デイケアを利用していた人の入居について、デイホームと連携し入居まで中断することなく対応した。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ユニット目標の「利用者様が主人公」の具体化に努めている。週4回の食材仕入れ時には、毎回6名の入居者が同行し、各自のお小遣いで買物を楽しんでいる。畑仕事や料理については職員が学ぶことも多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉での表現ができていない入居者については、表情や発声などで思いを把握し、気付いたことなどをケース記録に記載している。同じ発声でも朝と夜では意味が違う場合があるからである。意向の把握方法については、東京センター方式を導入している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者とその家族についての担当者を決めている。本人の生活上の要望、家族の希望については担当者がまとめ、それらを基にアセスメントを行ないケアプランに反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に3か月毎に見直しをしているが、必要に応じて随時、計画の見直しを行なっている。その他に月1回のユニットカンファレンスにおいて、見直しが必要かどうかなどを検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じて隣接する同法人の診療所の看護師に来てもらえる。急場では内線電話で連絡し、2～3分で診てもらえるし、夜間でも24時間医療部長の指示を仰ぐことができる。リハビリ等では作業療法士や理学療法士の指導が得られている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については入居者、家族の同意を得て、隣接する診療所の医師が担当している。月2回主治医による居宅療養管理指導を通して入居者全員の診療を行い、変化があれば家族に連絡し治療方針を相談している。ホームからは毎日メールの申し送り状態で伝達している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの実績をもっている。医師、看護師による医療体制、家族の協力、職員の勤務変更体制などへの理解など、経験に基づいてターミナルケアの指針を策定している。重度化した場合の対応についても家族も含め、早期から方針の統一をはかることとしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介助の内容によっては、入居者が恥ずかしい思いをすることがあることを職員は理解している。言葉掛けも明るくだけでなく、入居者一人ひとりへの気遣いも行き届き家族は感謝している。書類の記録やファイルの保管にもプライバシーを尊重した対応がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「その人の思いが実現に結びつくようなケアをしよう」がこのホームのテーマの一つである。そのために通常3人で行なう日常業務体制とは別に、入居者の要望や出掛けたいなどの思いを叶えるためにだけ行動する日と職員を設定している。マンツーマンで思いっきり1日を満喫した入居者もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の仕入れは入居者6人と職員2人で行なっている。新鮮さや旬の食材の判断が食卓での話題にもなる。一人ひとりの好き嫌いは一覧表にして把握している。後片付けなど職員と共にやっているが、食事作りにも力をふるってもらいたいと職員は考えており、期待したい。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯は日中、夜間ともに入居者の希望に添って決めている。温泉風呂にして楽しもうと企画したが、キャンドル入浴で、職員も一緒に8人位で入り、湯船の縁に自分達で作ったキャンドルに灯をともし、梅ジュースで乾杯。業務をイベントにしてしまう遊び心に拍手である。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食材の買い出しで同行するのは、入居者の大きな楽しみになっている。誰かの役に立っているという意味では食後の後片付けも軽視できない。絵の先生になっている人、散歩がてら週刊誌を買ってくる入居者が店長と馴染みの間柄となり、商品のサンプルをいただいているなど、職員の支援の様子がうかがわれる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週4回の食材仕入れ時の入居者の買物同行は1人あたり月に5～6回となるので、大切な外出の機会となっている。入居者一人ひとりへの個別対応の外出支援については、フリーの勤務者を充てて希望を叶えるようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束については理事長の「あってはならない」という思いがあり、そのために「清山会」を立ち上げた程である。そういう考え方から日中玄関は施錠せず、自由な雰囲気環境作り努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定した避難訓練を年に2回実施している。その際夜間を想定した訓練も行なっている。避難通路を確保し災害時の非常用食品も準備している。これを町内会の役員など地域の人達に見てもらい講評していただいた。法人内の「非常災害時対策」の研修に11人参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの栄養摂取の状況を把握するために、3か月毎に診療所で採血検査を行なっている。水分摂取については日々チェックを行ない記録している。摂取カロリーや栄養バランスについて、献立表を同法人介護施設の管理栄養士に見てもらい意見をもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に設置している卓子や椅子についても、落ち着けるよう配置に工夫し、死角にならないような工夫もしている。入居者を偲ぶメモリアルコーナーがさり気なく設えてあった。光線、温度、湿度の管理も適切であり、テレビの音や会話のトーンにも配慮が行き届いている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や写真なども飾られ、入居者一人ひとりの個性がよくわかる居室の設えとなっている。ことあるごとに家族と相談し、本人の好む物、年月をかけて馴染んだ物などを持ち込むように努力している。		